

『防災教育を中心とした学校安全フォーラム-未来へつなぐ防災教育プレフォーラム-』 を開催しました(2016/1/22)

テーマ：防災教育、学校安全、防災教育国際協働センター
場所：岩沼市民会館大ホール

2016年1月22日、宮城県教育委員会、東北大学災害科学国際研究所 防災教育国際協働センターの主催により、岩沼市民会館にて「防災教育を中心とした学校安全フォーラム-未来へつなぐ防災教育プレフォーラム-」が開催されました。フォーラムには、防災教育・学校安全に関わる教育委員会、学校教員、研究者、実践者等、約400名が参加しました。防災教育国際協働センターとしては、桜井愛子准教授がフォーラムの総合進行を担い、宮城教育大学の小田隆史特任准教授が逐次通訳を担うなど、学内外の連携に基づいた企画運営がなされました。

フォーラムでは、宮城県教育委員会の高橋仁教育長からの挨拶、岩沼市教育委員会の百井崇教育長による祝辞に続き、防災教育国際協働センターの佐藤健センター長（情報管理・社会連携部門、教授）より開催の趣旨説明が行われました。また、特別講演1として、早稲田大学の高野孝子教授・NPO法人エコプラス代表理事から「地域に根ざした教育～持続可能な社会づくりへの試み～」と題する特別講演が行われ、暮らしの「場」を知ることについて環境教育と防災教育との共通性が示唆されました。特別講演2としては、2004年のインド洋大津波の最大の被災地であるアチェ津波博物館トミー・ムリア・ハサン館長から「アチェにおける津波アーカイブと教育への活用」と題する特別講演が行われ、大津波から11年が経過したアチェにおいて、津波博物館が人々に大津波の経験を伝え次の災害に備える教育施設として、また地域の避難場所としての役割を果たしていることが紹介されました。大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンターの藤田大輔センター長からは、「セーフティプロモーションスクール認証による学校安全の充実」について講演が行われ、中長期的な計画のもと、実践の評価を踏まえて改善をしながら活動を継続していくことの重要性が強調されました。

また、学校現場での防災教育、学校安全の実践事例報告が、宮城県石巻市、柴田町、岩沼市の各教育委員会、宮城県の「防災教育推進協力校」である石巻市立広瀬小学校、名取市立ゆりが丘小学校から行われました。岩手県、福島県の教育委員会からも、復興・防災教育、放射線教育等の取組みについての最新情報が共有されました。さらに「子どもたちの安全を守る地域と学校の体制整備」について、パネルディスカッションが行われました。パネル討議では、佐藤健教授より「子どもたちは、大人たちが地域のために働く姿を見ながら、同様の大人へと育っていく」、東北福祉大学の数見隆生教授からは「地域に根ざした防災を行うことは、我々が東日本大震災から学んだ重い課題である」、東北工業大学の小川和久教授からは「学校ぐるみで発達段階に応じてそれぞれの学年の子どもたちが交通安全を学ぶことで、例えば、上級生が下級生に手本を示すことができる」等の発言がありました。

防災教育国際協働センターは、昨年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議に先立ち設置され、国際的な視野に立って、東日本大震災の被災地における学校防災・地域防災に関する経験や教訓を広く国内外に向けて共有発信するとともに、関係機関の連携を深め、防災教育を含む安全教育、安全体制の発展に資することを目指しています。今回のフォーラムは、宮城県教育委員会との協働開催を通じて、持続発展可能な教育（ESD）と防災の連携、アーカイブの教育への活用等の視点も取り込み、幅広い観点からの防災教育へのアプローチを防災教育に取組む関係者の方々に示すことができました。同センターでは、これからも年1回のフォーラムを継続して開催し、防災教育のハブ拠点として活動を続けてまいります。



会場のようす



パネル展示コーナー



展示・閲覧資料



高野教授による講演



ハサン館長による講演



ハサン館長を囲んで